

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

| | | |
|-----------|---|----------------------------------|
| 化学品の名称 | : | 酢酸ブチル |
| SDS コード | : | H2-04 |
| 供給者の会社名称 | : | |
| 林純薬工業株式会社 | | |
| 住所 | : | 大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号 |
| 電話番号 | : | 06-6910-7305 |
| E-mail | : | shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp |
| URL | : | https://direct.hpc-j.co.jp/ |
| 緊急連絡電話番号 | : | 06-6910-7305 |
| 推奨用途 | : | 試験研究用 |
| 使用上の制限 | : | 人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事 |

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

| 物理的危険性 | | |
|--------|--------------------|----------|
| | 爆発物 | 区分に該当しない |
| | 可燃性ガス | 区分に該当しない |
| | エアゾール | 区分に該当しない |
| | 酸化性ガス | 区分に該当しない |
| | 高圧ガス | 区分に該当しない |
| | 引火性液体 | 区分 2 |
| | 可燃性固体 | 区分に該当しない |
| | 自己反応性化学品 | 区分に該当しない |
| | 自然発火性液体 | 区分に該当しない |
| | 自然発火性固体 | 区分に該当しない |
| | 自己発熱性化学品 | 分類できない |
| | 水反応可燃性化学品 | 区分に該当しない |
| | 酸化性液体 | 区分に該当しない |
| | 酸化性固体 | 区分に該当しない |
| | 有機過氧化物 | 区分に該当しない |
| | 金属腐食性化学品 | 区分に該当しない |
| | 鈍性化爆発物 | 分類できない |
| 健康有害性 | 急性毒性 (経口) | 区分に該当しない |
| | 急性毒性 (経皮) | 区分に該当しない |
| | 急性毒性 (吸入: 気体) | 区分に該当しない |
| | 急性毒性 (吸入: 蒸気) | 分類できない |
| | 急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト) | 分類できない |
| | 皮膚腐食性/刺激性 | 区分に該当しない |
| | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分 2B |
| | 呼吸器感作性 | 分類できない |
| | 皮膚感作性 | 分類できない |
| | 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| | 発がん性 | 分類できない |
| | 生殖毒性 | 分類できない |

| | | |
|-------|------------------|--------------|
| | 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | 区分 3 (麻酔作用) |
| | 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | 区分 3 (気道刺激性) |
| | 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | 分類できない |
| | 誤えん有害性 | 分類できない |
| 環境有害性 | 水生環境有害性 短期(急性) | 区分 3 |
| | 水生環境有害性 長期(慢性) | 区分に該当しない |
| | オゾン層への有害性 | 分類できない |

絵表示
(GHS JP)



GHS02



GHS07

- 注意喚起語 (GHS JP) : 危険
- 危険有害性 (GHS JP) : 引火性の高い液体及び蒸気 (H225)
眼刺激 (H320)
呼吸器への刺激のおそれ (H335)
眠気又はめまいのおそれ (H336)
水生生物に有害 (H402)

注意書き (GHS JP)

- 安全対策 : 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
容器を接地しアースをとること。(P240)
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。(P241)
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。(P261)
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置

- : 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)
目の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)

保管

- : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
施錠して保管すること。(P405)

廃棄

- : 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 化学物質
- 別名 : 酢酸 n-ブチル

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学式 | 官報公示整理番号 | | CAS RN |
|----------|----------|------------|----------|-----------|----------|
| | | | 化審法番号 | 安衛法番号 | |
| 酢酸ブチル | ≥99.0% | CH3COOC4H9 | (2)-731 | 2-(6)-226 | 123-86-4 |

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。
上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。
口をすすぐこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災危険性 : 極めて引火性の高い液体及び蒸気。
- 爆発の危険 : 屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。
加熱により、容器が爆発するおそれがある。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に
消火する。
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な
保護具を着用し、風下で作業行わない。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 漏出は、吸収剤を使用してできるだけ素早く回収する。
できるだけ液体漏出物は密閉容器に回収する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業
する。
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分
にする。

- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗いうがいをする事。
作業所の十分な換気を確保する。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
防爆型装置を使用する。
- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。
- 保管**
- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。
- 安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。
- 技術的対策 : 適用法令を遵守する。
- 保管温度 : 冷暗所保管

8. ばく露防止及び保護措置

| 成分名 | 管理濃度(厚生労働省) | 許容濃度(産衛学会) | |
|-------|-------------|----------------------------------|---------|
| | | 基準値 | 許容濃度 上限 |
| 酢酸ブチル | 150 ppm | 475 mg/m ³ 100 ppm | - |

- 設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

- 皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴
- 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋
- 呼吸用保護具 : 有機ガス用防毒マスク

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 外観 : 液体
- 色 : 無色透明
- 臭い : 芳香臭
- pH : データなし
- 融点 : -77 ° C
- 凝固点 : データなし
- 沸点 : 126 ° C
- 引火点 : 22 ° C (タグ密閉式)
- 自然発火点 : データなし
- 分解温度 : データなし
- 可燃性 : データなし
- 蒸気圧 : 1.33 kPa (20°C)
- 相対密度 : データなし
- 密度 : 0.878 - 0.883 g/cm³ (20°C)
- 相対ガス密度 : データなし
- 溶解度 : アルコールに可溶。エーテルに可溶。炭化水素に可溶。
水: 0.8 % (20°C)
- n-オクタノール/水分係数(Log Pow) : 1.82
- 爆発限界 (vol %) : 1.7 - 7.6 vol %

動粘性率 : データなし
 粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : データなし
 化学的安定性 : 通常の取扱い条件では安定である。空気または水分と接触すると徐々に分解し、酢酸及びn-ブタノールを生じる。
 危険有害反応可能性 : 強酸化剤、強酸および強塩基と反応する。火災や爆発の危険を生じる。多くのプラスチックおよびゴムを侵す。
 避けるべき条件 : 日光、湿気、熱、火花、裸火、静電気等の発火源。強酸化剤、強酸、強塩基、プラスチック、ゴムとの接触。
 混触危険物質 : 強酸化剤、強酸、強塩基、プラスチック、ゴム
 危険有害な分解生成物 : データなし

11. 有害性情報

| 酢酸ブチル | |
|------------------|---|
| 急性毒性(経口) | ラットの LD50 値として、> 3,200-14,130 mg/kg (SIDS (2009))、10,700-14,130 mg/kg (DFGOT vol. 19 (2003))、12,760 mg/kg (雄)、10,736 mg/kg (雌) (SIDS (2009))、13,100 mg/kg (雄)、11,000 mg/kg (雌) (CICAD 64 (2005))、14,130 mg/kg (CICAD 64 (2005))、環境省リスク評価第 1 巻 (2002)、ACGIH (7th, 2001)) との報告に基づき、区分外とした。 |
| 急性毒性(経皮) | ウサギの LD50 値として、> 5,000 mg/kg (ACGIH (7th, 2001))、> 5,000-17,600 mg/kg (SIDS (2009))、> 14,080 mg/kg (雄、雌) (SIDS (2009))、> 20 mL/kg (=17,600 mg/kg) (DFGOT vol. 19 (2003)、ACGIH (7th, 2001)) との報告に基づき、区分外とした。 |
| 急性毒性(吸入:気体) | GHS の定義における液体である。 |
| 急性毒性(吸入:蒸気) | ラットの LC50 値 (4 時間) として、2,000 ppm (ACGIH (7th, 2001))、> 4,000 ppm (DFGOT vol. 19 (2003))、> 32,000 mg/m ³ (=6,752 ppm) (CICAD 64 (2005))、LC50 値 (6 時間) として > 8,000 ppm (雄、雌) (4 時間換算値: 9,798 ppm) (SIDS (2009)) との 4 件の報告がある。うち 1 件は区分 3 に該当するがその他 3 件の報告からは区分を特定できないので、分類できないとした。新たな情報源 (SIDS (2009)、CICAD 64 (2005)、DFGOT vol.19 (2003)) を追加し、区分を見直した。 |
| 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) | ラットの LC50 値 (4 時間) として、0.74 mg/L (OECD TG 403) (SIDS (2009))、0.74 mg/L、1.8 mg/L、5.1 mg/L、> 45 mg/L (CICAD 64 (2005))、1.86 mg/L (DFGOT vol.19 (2003)、ACGIH (7th, 2001))、> 23.4mg/L (OECD TG 403) (SIDS (2009)) との 7 件の報告がある。OECD TG 403 準拠データ間においても大きなばらつきがあるために、分類できないとした。 |
| 急性毒性(吸入:ミスト) | データなし |
| 皮膚腐食性/刺激性 | ウサギに本物質 (99.6%) を 4 時間適用した結果、刺激反応はみられず、痂皮形成及び浮腫のスコアは 0 であったとの報告 (SIDS (2009)) や、モルモットを用いた試験において刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2009))。また、ヒトに対して本物質 4% を 48 時間閉塞適用したパッチテストにおいても刺激性なしとの報告がある (SIDS (2009))。以上の結果から区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。 |
| 眼に対する重篤な損傷性/刺激性 | ウサギの眼に本物質 0.1 mL を適用した結果、軽度から中等度の虹彩炎がみられたが 48 時間後には回復したとの報告や (SIDS (2009))、ウサギを用いた他の眼刺激性試験で軽度の刺激性、又は刺激性なしとの結果が複数ある (SIDS (2009))。また、本物質 (70-1400 mg/m ³) にばく露されたヒトにごく軽度の刺激性がみられたとの報告がある (SIDS (2009))。以上の結果から、区分 2B とした。 |
| 呼吸器感受性 | データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚感受性 | データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いた試験やマウスの耳介膨張試験において感受性はみられなかった (SIDS (2009)) との報告や、ヒトに対して感受性は認められない (環境省リスク評価第 1 巻 (2002)) などの記載があるが、試験法や結果の詳細について不明であるため、分類に用いるには不十分なデータとした。 |
| 生殖細胞変異原性 | データ不足のため分類できない。In vivo データはなく、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である (SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 19 (2003)、NTP DB (Access on October 2014)、HSDB (Access on September 2014))。 |

| 酢酸ブチル | |
|-----------------|--|
| 発がん性 | データ不足のため分類できない。 |
| 生殖毒性 | データ不足のため分類できない。ラットを用いた吸入経路による催奇形性試験において、母動物毒性(体重減少)がみられる用量で、胎児成長の遅延、肋骨形成異常(波状、癒合、分岐)がみられ、ウサギを用いた吸入経路による催奇形性試験において、母動物毒性はみられなかったが、胎児に胸骨分節不整配列、網膜ひだの発生率の増加、胆嚢の形態学的変異がみられ、これらは奇形ではなく変異とみられており、催奇形性を含め児の発生に悪影響は認められていない(SIDS(2009)、CICAD 64(2005)、DFGOT vol. 19(2003)、ACGIH(2001))。雌ラットに交配前3週間から吸入ばく露し、無処置の雄ラットと交配し、さらに妊娠16日まで吸入ばく露した試験において、母動物毒性(摂餌量減少、体重減少、肝臓の絶対重量減少、腎臓及び肺の相対重量増加)がみられたが生殖能に影響はなく、胎児に対して胎児成長の遅延がみられた(CICAD 64(2005)、DFGOT vol. 19(2003)、環境省リスク評価第1巻(2002)、ACGIH(2001))。これらの試験では、催奇形性はみられず、胎児の成長遅延、変異はわずかな影響であることからガイダンスに従い分類根拠としなかった。以上、発生毒性、雌動物の生殖能に関して影響はみられていない。しかし、雄動物の生殖能に関する情報が不十分であることから分類できないとした。 |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 本物質は、気道刺激性がある(産衛学会許容濃度の提案理由書(1994)、環境省リスク評価第1巻(2002)、ACGIH(7th, 2001)、CICAD 64(2005)、DFGOT vol. 19(2003))。ヒトにおいては、蒸気吸入ばく露により、頭痛、悪心、高濃度でめまい、呼吸困難、意識喪失、衰弱が報告されている(産衛学会許容濃度の提案理由書(1994)、ACGIH(7th, 2001)、CICAD 64(2005)、DFGOT vol. 19(2003))。実験動物では、ラットの1.3 mg/Lの吸入ばく露で運動失調、努力呼吸、麻酔作用、ラットの32.6 mg/Lの吸入ばく露で呼吸困難、ラット、マウスの10,736 mg/kgの経口投与で中枢神経系抑制、協調運動失調、衰弱、体温低下がそれぞれみられている(CICAD 64(2005)、ACGIH(7th, 2001)、SIDS(2009))。以上より、本物質は気道刺激性及び麻酔作用があると判断し、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。なお、旧分類で記載された知見で以下の項目は不採用とした。すなわち、ヒトの混合ばく露の事例については他物質の影響の可能性もあるため不採用とした。「ラットのエアゾールによる吸入ばく露試験において、540 ppm/4h(2.57mg/L/4h)で肺のうっ血、肺胞の出血、気管支粘膜の脱落、肺胞上皮細胞の壊死、肺水腫などが観察されている(ACGIH(7th, 2001))」の知見は、死亡動物のデータであったため不採用とした。 |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 実験動物ではラットに本物質(蒸気と推定)を13週間吸入ばく露した試験において、区分外の高濃度(1,500 ppm以上: 7.05mg/L/6時間)で、呼吸器への影響(鼻腔刺激症状、嗅上皮の壊死)がみられたのみであった(SIDS(2009)、CICAD 64(2005)、DFGOT vol. 19(2003))。また、モルモットに本物質を28日間吸入ばく露した試験でも、4,840 mg/m ³ (ガイダンス値換算: 1.00 mg/L/6時間)で、血液検査(血球数)、尿検査、病理検査(剖検)に影響を認めなかった(環境省リスク評価第1巻(2002)、CICAD 64(2005))との記述がある。しかし、他の経路での毒性情報及びヒトでの知見がなく、データ不足のため「分類できない」とした。 |
| 誤えん有害性 | データ不足のため分類できない。 |

12. 環境影響情報

| 酢酸ブチル | |
|----------------|--|
| 水生環境有害性 短期(急性) | 魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=18 mg/Lである(CICAD 64, 2005、SIDS, 2009)ことから、区分3とした。 |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(BODによる分解度: 98%(SIDS, 2009)、藻類(セネデスマス)の72時間EC10=296 mg/L(CICAD 64, 2005)であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=18 mg/Lである(CICAD 64, 2005、SIDS, 2009)が、急速分解性があり(BODによる分解度: 98%(SIDS, 2009))、生物蓄積性が低いと推定される(LogKow=1.78 (PHYSPROP Database, 2009))ことから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。 |
| 残留性・分解性 | データなし |
| 生体蓄積性 | データなし |
| 土壌中の移動性 | データなし |

| 酢酸ブチル | |
|-----------|-------|
| オゾン層への有害性 | データなし |

13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 1123
- 正式品名 (IMDG) : BUTYL ACETATES
- 容器等級(IMDG) : II
- 輸送危険物分類 (IMDG) : 3
- 危険物ラベル (IMDG) : 3
- クラス(IMDG) : 3
- 少量危険物(IMDG) : 1 L
- 微量危険物(IMDG) : E2
- 包装要件(IMDG) : P001
- IBC 包装要件(IMDG) : IBC02
- ポータブルタンク包装規定 (IMDG) : T4
- 輸送特別規定-タンク(IMDG) : TP1
- 積載区分 (IMDG) : B
- 特性および観察結果 (IMDG) : Colourless liquids with a pineapple-like odour. Immiscible with water. normal-BUTYL ACETATE: flashpoint 27° C c.c. Explosive limits: 1.5% to 15%.
- 緊急時応急措置指針番号 : 129

航空輸送(IATA)

- 国連番号 (IATA) : 1123
- 正式品名 (IATA) : Butyl acetates
- 容器等級 (IATA) : II
- 輸送危険物分類 (IATA) : 3
- 危険物ラベル (IATA) : 3
- クラス (IATA) : 3
- PCA 微量危険物(IATA) : E2
- 特別管制区(PCA)少量危険物(IATA) : Y341
- 特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA) : 1L
- PCA 包装要件(IATA) : 353
- 特別管制区(PCA)最大積載量(IATA) : 5L
- CAO 包装要件(IATA) : 364
- 貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA) : 60L
- 特別規定(IATA) : A3
- ERGコード (IATA) : 3L

- 海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

- 海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
- 航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
- 緊急時応急措置指針番号 : 129
- 特別な輸送上の注意 : 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

| | |
|-----------------------|---|
| 労働安全衛生法 | : 第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号) 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2) 酢酸ブチル 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) 特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者(法第66条第2項、施行令第22条第1項) |
| 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| 消防法 | : 第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類) |
| 大気汚染防止法 | : 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達) |
| 海洋汚染防止法 | : 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1) |
| 外国為替及び外国貿易法 | : 輸出貿易管理令別表第1の16の項 |
| 船舶安全法 | : 引火性液体類(危規則第2, 3条危険物告示別表第1) |
| 航空法 | : 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1) |
| 港則法 | : その他の危険物・引火性液体類(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表) |
| 道路法 | : 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2) |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | : 特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4) |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) | : 非該当 |
| 労働基準法 | : 疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1) |

16. その他の情報

| | |
|--------|---|
| 参考文献 | : 17423 の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会) |
| その他の情報 | : この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。 |